



## 『まんがでわかる畑の虫 おもしろ生態と防ぎ方』

木村裕 監修 大中西子 絵

農山漁村文化協会 刊 (TEL03-3585-1147)

定価 1,540円 (本体1,400円+税)

自然を愛する日本人は古来昆虫好きで、さまざまな虫を和歌に詠んだりデザインモチーフにしたりしてきた。全世界に100万種もいるという多様性や人間とはまったく異なる形状と仕組みを持つところに惹きつけられ、いつの時代も昆虫を愛でてきた私たちだが、畑の作物を荒らす害虫だけは別だ。愛でる対象どころか憎き敵である。

本書は、そんな畑の害虫27種の生態と被害の防ぎ方をユーモラスな漫画でわかりやすく解説している。アブラムシが一つの植物しか食べない偏食家であるとか、ナメクジが氷点下の温度にも耐え得るとか、アオムシの一種であるワタヘリクロノメイガの幼虫がキュウリの葉を糸で綴り合せてその中に潜むとか、驚きの生態を詳しく知ることができる。

読み進めていくうちに害虫も社会性のある生活を送っていたり、熾烈

な生存競争に身を投じて日々戦っていたりするのだと理解できる。すると彼らのミクロな世界がとてつもなく大きなものに思えてくるから不思議だ。植物を地面になぎ倒すカミキリムシと呼ばれるカブラヤガの章には特に驚かされる。彼らの中には切り倒した苗を地面に突き刺す“知能犯”がいて、そのために人間が食害に気づくのが遅れるとあるのだ。小さな虫と侮らず、真剣に対峙しなければひどい目に遭わされると身が引き締まる思いだ。

また本書は、害虫捕殺のための早期発見の手がかりや、害虫の天敵の使い方などを写真入りで解説している。さらには害虫の畑への侵入を防ぐためのマルチや寒冷紗の効果的な使い方や、農薬を使わずに害虫被害を防ぐ方法と、農薬を正しく効果的に利用する方法の両方を学べる。農業に有用な生物多様性を保持しつつ畑の害虫防除するために役立つ指南書だ。

(日本農業新聞 齋藤 花)  
さいとう はな